

これからの歩みに向けて Ⅲ

日本聖公会北関東教区と東京教区は、11月22日および24日に開催された両教区会において、「教区新設を承認する件」を可決し、新たに「日本聖公会東日本教区」として歩みを始めることになりました。

このたびの新教区の設立は、日本聖公会の歴史の中で長く検討され続けてきた困難な課題に、初めて具体的な形で応えたものです。しかしながら、教区新設はそれ自体が目的ではなく、主イエスの福音を宣べ伝え、「神の国」を共に証ししていくための、宣教する器としてよりふさわしい姿を模索するための一つの選択です。私たちはこの決断を、「新しい宣教の主体」として歩み出すための自由と可能性を開くものとして受け止めています。

一方で、この新しい歩みに際して、期待とともに、不安や戸惑い、さまざまな思いが交錯していることも、私たちは率直に受け止める必要があります。長く大切にしてきた教区の姿や、慣れ親しんだ関係や仕組みが変わることに、心が容易には追いつかないと覚えることも自然なことであり、多様な受け止めが存在すること自体が、新しい始まりには大切だと考えます。私たちは、確かな答えや完成された姿を最初から持っているわけではありませんが、互いの思いに耳を傾け、祈りのうちに対話を重ねながら、これまで各々の間に育てられてきた信頼を手放さず、歩調の違いを抱えたまま、共に進むことを求めています。

新しい教区は、それぞれの教区の伝統や経験、知恵を生かしつつ、各教会がそれぞれの歴史を尊重しながら、地域における宣教の務めを主体的に担っていくことを支える存在となることを目指します。その歩みは、強さや効率を優先するものではなく、互いに支え合いながら、主に委ねて進められる共同の営みです。

私たち一人ひとりが宣教の未来を思い描き、その未来にふさわしい教会・教区の姿を、共に整えていくことができますよう、主の導きを祈り求めつつ、ゆっくり歩んで参りましょう。皆さまの祈りとさらなるご協力、ご理解を、心よりお願い申し上げます。

**「私たちは、この宝を土の器の中に納めています。
それは、計り知れない力が神のものであって、
私たちから出たものではないことが明らかになるためです。」**
(コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章7節)

救主降生 2025 年 12 月 25 日 降誕日

日本聖公会北関東教区管理主教
主教 フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸
北関東教区常置委員会



日本聖公会東京教区教区主教
主教 フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸
東京教区常置委員会

